

【追加説明】輸入車のリサイクル料金について

e

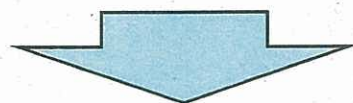
2009.12.9 産構審・中環審合同会議 JAIA説明資料より

3. 輸入車の特徴

2) 輸入車のリサイクル料金は国産車と比べて高く設定せざるを得ない状況

理由: ・ELV台数が少なく、1台あたりの社内ITシステム等の経費が高くなってしまう

・エアバッグ類の装備個数が多い



2009.12.9 産構審・中環審合同会議 議事要旨より

コスト構造についてはもう少しきちとした説明資料をいただきたい。リサイクル料金は、結局、エアバッグ・ASR等の処理費となっており、中古車輸出により固定費が多少高くなることは理解できるが、意味が分かりにくい部分があるので、追加の説明資料をお願いしたい。



「・ELV台数が少なく、1台あたりの社内ITシステム等の経費が高くなってしまう」構造について、追加説明致します。

1. リサイクル料金の内訳

リサイクル料金には、3物品処理費用(直接費用)の他、メーカー・インポーター社内の経費(ITシステム関連費用等)が含まれている。

リサイクル料金	ASR料金		エアバッグ類 料金	フロン類料金
リサイクル費用 内訳の例※	ASR処理費用	メーカー・ インポーター 自社経費	エアバッグ類 処理費用	フロン類 処理費用

- ・リサイクル業務用 ITシステム構築費用
- ・リサイクル業務用 ITシステム維持・運用費用
- ・リサイクル業務担当者の人件費

※ 自社経費をどの品目に計上するか(ASR料金に計上、全3物品料金に均等に計上など)は各メーカー・インポーター毎の判断。上記は一例。

2. リサイクル料金に計上する自社経費の設定例

- 1) 自社経費をリサイクル料金に計上する際の基本的な考え方
＝中長期的に収支均衡※を目指す。

⇒例えば10年(≒ELV車齢)での収支均衡とした例で説明

※ 自リ法第34条第2項 ... 料金は、特定再資源化等物品の再資源化等に必要な行為を能率的に実施した場合における適正な原価を上回るものでなく、かつ、当該適正な原価に著しく不足しないものでなければならない。

2) 自社経費の計算例

費目		10年間の総額
リサイクル業務用ITシステム構築費用(初期費用)	1.5億円	1.5億円
リサイクル業務用ITシステム維持・運用費用	2000万円/年	2億円
リサイクル業務担当者の人件費	700万円/年	7000万円
計		4億2000万円

⇒例えば、10年間で4.2億円の自社経費がかかるとして、リサイクル料金を計算

注：各社の自社経費、計算年数は会社によって異なります。上記費用と一致していることを示すものではありません

3. リサイクル料金の計算例

自社経費総額を10年間の想定ELV台数で割り、
ELV1台当たりの金額を算出し、リサイクル料金に計上。

計算パターン例	リサイクル料金1台当たりの自社経費額
① 年間 30万台 のELVで計算した場合	4.2億円 ÷ 300万台 = 140円/台
② 年間 1.5万台 のELVで計算した場合	4.2億円 ÷ 15万台 = 2,800円/台

ELV台数が少ない

⇒リサイクル料金1台当たりの自社経費が高くなる

⇒ リサイクル料金が高くなる。

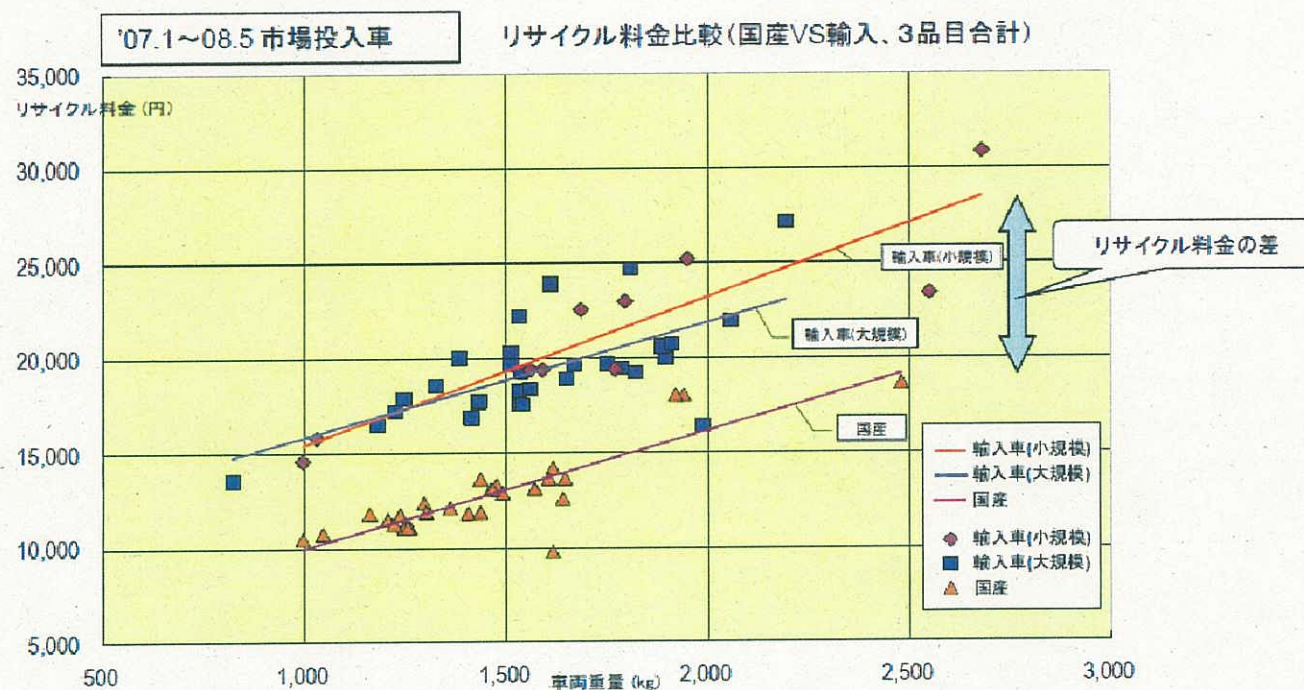
注記：上記は、ELV台数による影響を模式化したものです。各社の自社経費・ELV台数は会社によって異なります。
上記費用と一致していることを示すものではありません

【参考】2009年12月9日 JAIA説明資料抜粋

3. 輸入車の特徴

2) 輸入車のリサイクル料金は国産車と比べて高く設定せざるを得ない状況

理由: ・ELV台数が少なく、1台あたりの社内ITシステム等の経費が高くなってしまう
・エアバッグ類の装備個数が多い



出典 各社リサイクル料金及び車両諸元値